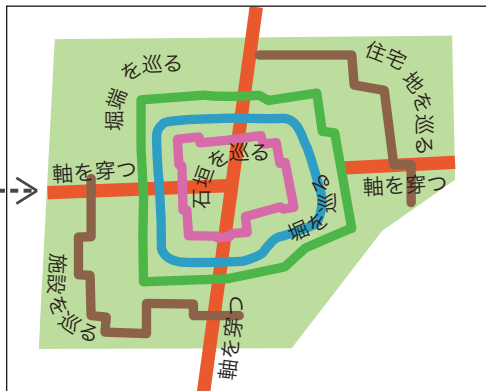


城址公園都市

歴史資源である福井城本丸跡の石垣と堀を中心に、公園、業務、商業、住居等が共存する対象地は、鉄道駅にも近く機能が集約されたコンパクトな形態であるが故に、一方で、憩いの場としての豊かさに欠ける。そこで、本計画では、対象地区全体を「城址公園」に見立て、城址の同心環構造を活かしながら、多様な「緑」と「公共的な空間」を配しつなげていくことで、公園の中で人々が歴史に触れ、憩い、住まい、創り、学び、働くような「城址公園都市」を提案する。県都の顔としての本丸跡は、福井県の植生のショーケースのような現代的な庭園とし、南西の業務エリアには、創造拠点・市役所・モビリティステーションを起点に天候に左右されず屋内外を貫通する緑の通路を巡らせ、北東の住居エリアでは、共有の広場や駐車場を設け環境調整装置としてのバックガーデンで住宅をつなげる。さらに、堀端や街路には憩いや賑わいの機能を持たせ、結節点にはマルシェや大浴場などの集まりの場を設ける。これらによって、観光客、居住者、就労者、来街者が無理なく共存する「城址公園都市」を計画する。



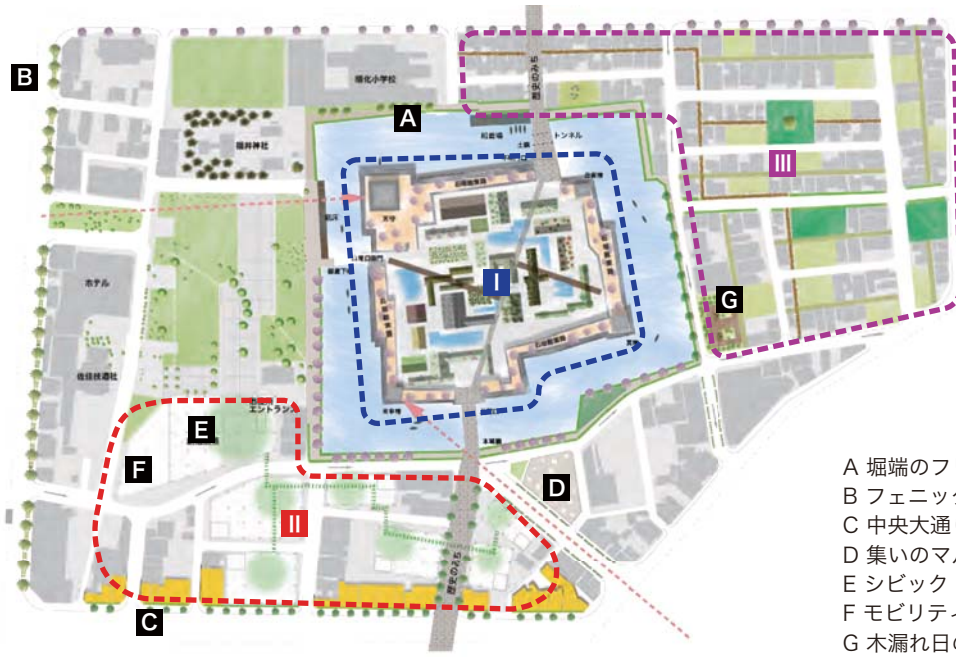
江戸期の城址
(本丸を中心とした環郭式城郭構造)



提案コンセプト
1. 対象地区全体を城址公園に見立てる
2. 同心環とそれを貫く放射軸



周辺との関係
(視線・動線・交通のつながり)



- A 堀端のフリンジ公園
- B フェニックス通りの皺
- C 中央大通りのアクティブ・ファサード
- D 集いのマルシェ
- E シビック・ホール(創造拠点,市役所)
- F モビリティステーション&スタンド
- G 木漏れ日の大浴場

I 本丸ポタニカルガーデン



県庁移転後の本丸内に、福井県の植生のショーケースのような現代的な庭園によって新たな県都の顔をつくる。園内は、歴史の道の一部で南北の橋をつなぐ園路が貫き、さらにそこから左右へと導く園路が延びる。来園者は、園路を通して様々な植生を横断していく。また、石垣の上を歩いて巡られるようにして、地上とは異なる視点で庭園を眺められるようにする。県庁の地下駐車場跡には地下シアターをつくり、文化活動の発表の場とする。

II 南二の丸グリーン・ネックレス



敷地南西の業務エリアでは、一定規模以上の公共建築物や民間建築物を建て替える際のルールを設ける。1階に屋内公開空地や共用通路などの公共的な屋内空間を設け、通り抜けができるようにすること、そして、それらの屋内を貫通する空間同士をつなぐ緑の屋根を設けること。最終的にはシビックホールを起点に、天候に左右されず屋内外を貫通する緑の通路を張り巡らせる。

III 東三の丸ヴィレッジ



各住宅の建て替えの際に、散在する駐車場を集約しながら共有の広場や駐車場を設け、交通空間優勢から生活と憩いの空間優勢へと緩やかにシフトしていく。また、環境調整装置としてのバックガーデン、本丸へのヴィスタを強調するフロントガーデン、城址の構造を顕在化させる掘り跡の小道などの線的要素を積極的に組み込み、歩いて楽しい住宅地を目指す。これらのコモンスは住民組織が維持管理する。